



茅野 健

質問 1  
今後の観光産業に対する  
取り組みは

町 できる支援については協議しつつ

問 雇用創出の面から観光産業の役割をどう考えるか。

答 観光は、本町の産業をリードし、個性豊かな地域づくりを進めるための戦略産業である。雇用対策における観光産業の役割は非常に重要である。町内企業のバランスのとれた振興が必要と考える。

答 現在季節のポスターなどは、那須町観光協会へ委託事業で作成している。四季ごとに700枚程度作成しているが、大部分が町内への掲示となっている。

今後は、JRなどのつながりを大事にし、県関西事務所などへPRを強化していく。

問 持続可能な観光地形成のためのバックアップ体制は。

答 芦野、伊王野、湯本などの町内各地において、町や各地区で整備計画や再生プランなど策定し、実現可能かつ実施効果が速やかに期待できるものから実施するという考えで整備を行ってきた。

ないがしろにする考えはないが、閑古鳥にならないような支援も考えているので「町の鳥」を変更する考えは今のところ無い。

問 観光消費額増加の考えは。

答 現在まで、ニューツーリズム事業促進、教育旅行招致協議会、インバウンド協議会などとの連携により、新たな顧客獲得に務めてきた。今後も町のブランド力を向上させ、観光協会等の関係団体と連携し、「那須町総合戦略」などの目標達成に尽力する。

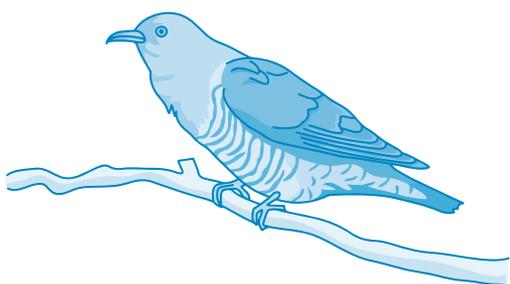


▶ポスターは多くのお客様に四季の那須を知ってもらう重要なツール

問 観光PRを今後どのように取り組むのか。

問 別名「閑古鳥」と言われる、町の鳥カッコウを別の鳥に変える考えは。

答 カッコウは、昭和29年に美しい声で人々の心を和らげ、明るく住みよい本町にふさわしい鳥であるということで、町民の代表や有識者などの第三者も交えた方々により決定された。会津若松市や、仙台市など他観光地として有名な市町も同じ鳥を選定しているところも多い。決して、観光を



みなさんご存知でしたか？ 町の鳥は「カッコウ」!